

# 県内企業のIoT導入モデルプラン

## (商業・サービス業編)

平成30年3月

福井県 産業労働部 新産業創出課

# 目 次

はじめに	1
第1章 県内企業のIOT・AI導入の現状	2
1 アンケート結果	
第2章 商業・サービス業でのIOT導入のポイント	7
1 流通業におけるIOT	
2 小売業におけるIOT	
3 飲食業・サービス業におけるIOT	
4 IOTにより業種の壁がなくなる	
第3章 IOT導入の具体的事例	11
1 プロジェクトチームの派遣による課題の抽出	
2 プロジェクトチーム派遣から得られる知見	
3 実際にIOTを導入した事例	
第4章 IOT導入の支援策	17
1 国の支援策	
2 県の支援策	
3 福井県IOT推進ラボ	

## はじめに

I o Tやビッグデータ、人工知能(A I)を駆使した「第4次産業革命」の実現は、ビジネスや社会に大きな変革をもたらすとされ、日本再興戦略においても、官民戦略プロジェクトの最重要施策として位置付けられています。

中でも、I o Tは、新たなビジネスモデルを生み出し、多くの社会的な課題を解決するものと期待されており、想像以上のスピードで世界中に普及しつつある中、その波に乗り遅れると、社会システムや産業構造、就業構造の変化に取り残される可能性があります。

国は、平成27年10月に、企業・業種の枠を超えて産官学で利活用を促進するI o T推進コンソーシアムを立ち上げ、先進的なモデル事業の創出や環境整備を支援していますが、この流れを地方でも加速させるため、地域でのI o Tビジネスの創出を支援する「地方版I o T推進ラボ」を選定することとなり、福井県も「福井県I o T推進ラボ」が平成28年7月に選定されました。

「福井県I o T推進ラボ」では、これまでI TやI o Tの活用を検討する県内企業に対し、セミナーの開催やメンター派遣、ビジネスマッチングの提供等を行っていますが、昨年行った県内企業のアンケート結果によると、I o Tに関心はあるものの、メリットや費用対効果が分からず、導入している企業はまだ少ないのが現状です。

今日、技術革新により、かつては高額であった高性能のセンサーやコンピュータ、通信に要する費用が低下し、比較的低コストでI o Tを導入することが可能となっています。離れた場所にある多数の機器の稼働状況や人の動きが即時に把握できるI o Tは、少子高齢化に伴う労働力不足等の課題の解決につながるだけでなく、I o Tにより蓄積された様々なデータを活用して、新しい成長産業を創出することも期待できます。

県では、平成28年度より、県内中小企業の現場における具体的な導入を支援する事業を実施しており、他の企業のモデルとなるようなI o T導入プランを作成しています。昨年度の製造業に続き、今年度は、商業・サービス業を中心に作成いたしました。あわせて、今年度新たに設けた「I o T・A I等導入促進事業補助金」の採択事例の一部も紹介しています。

このモデルプランを、I o T導入を検討する際の一助として利用いただければ幸いです。

最後になりますが、本プラン作成にあたり、多大なるご協力を賜りました福井県情報化支援協会の皆様に、心より御礼申し上げます。

平成30年3月

福井県産業労働部新産業創出課長  
西澤 弘純

# 第1章 県内企業のIoT・AI導入の現状

## 1 アンケート結果

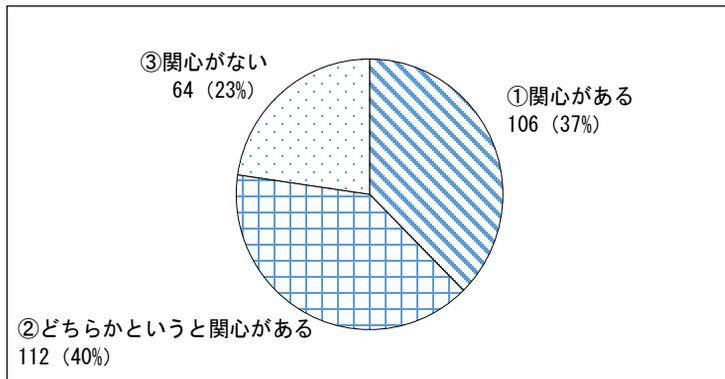
県内企業を対象に、IoT・AIについてのアンケートを実施しました。

- ・期 間 平成29年10月1日～10月31日
- ・対 象 県内企業 1,000社（業種を問わず）
- ・回答数 IoT：282社、AI：279社

### (1) アンケート結果（IoTについて）

#### 問1 IoTについての関心度について

「関心がある」「どちらかというに関心がある」と回答した企業が3/4以上(77%)と高い数字になった。業種毎では、「製造」「卸・小売」で特に関心が高いことが分かる。

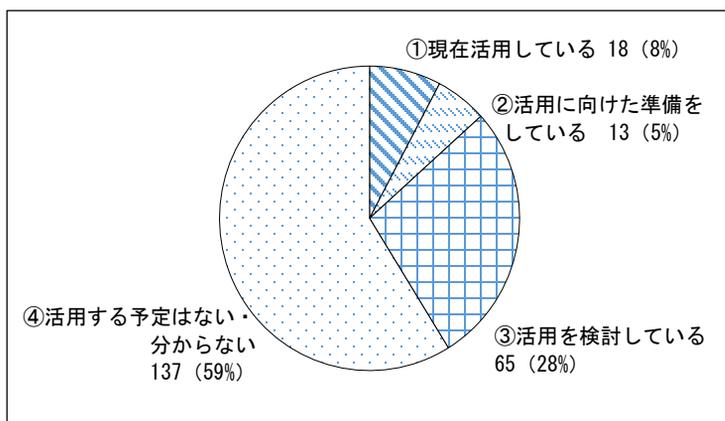


特に回答が多かった業種をピックアップ

分類	計	①関心がある	②どちらかというに関心がある	③関心がない
全体	282	106	112	64
製造	88	39	37	12
卸・小売	83	28	38	17
建設	43	13	14	16
医療・福祉	34	16	9	9

#### 問2 IoTの活用状況について

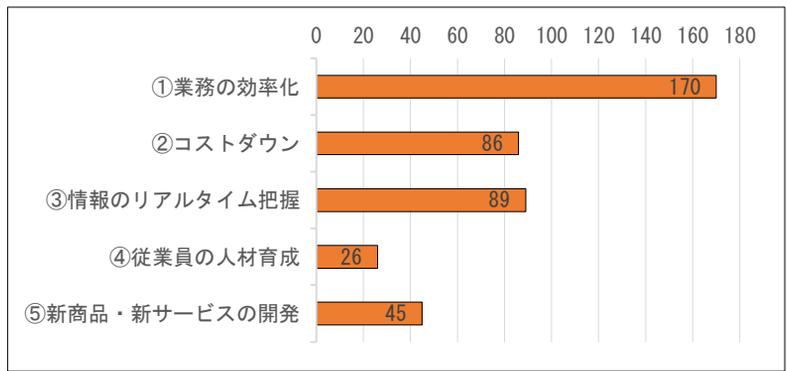
「活用している」企業は8%で、半数以上は、「活用する予定はない・分からない」企業であることが分かった。また、業種別に見ると、「製造業」では活用に向けての準備や検討が始まっている。



分類	計	①現在活用している	②活用に向けた準備をしている	③活用を検討している	④活用する予定はない・分からない
全体	233	18	13	65	137
製造	80	9	7	27	37
卸・小売	69	6	3	16	44
建設	29	1	2	8	18
医療・福祉	28	1	1	8	18

### 問3 IoTに期待すること

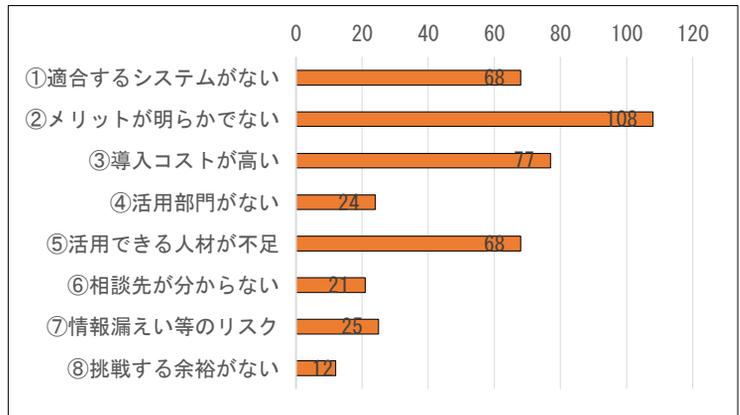
「業務効率化」「コストダウン」「情報のリアルタイム把握」など、業務改善への期待が高いことが分かる。また、「新商品・新サービスの開発」に期待する声も一定数あった。



分類	計(複数回答可)	①業務の効率化	②コストダウン	③情報のリアルタイム把握	④従業員の人材育成	⑤新商品・新サービスの開発
全体	416	170	86	89	26	45
製造	139	54	39	25	6	15
卸・小売	129	55	16	36	7	15
建設	51	24	10	7	6	4
医療・福祉	48	19	14	11	2	2

### 問4 活用する上で課題と思われること

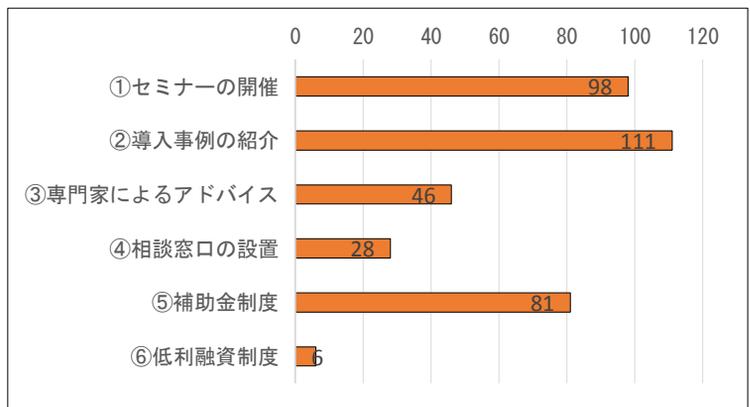
メリットの分かりにくさや導入コストの高さなどが課題として多く挙げられた。また活用人材の不足なども大きな課題となっている。



分類	計(複数回答可)	①適合するシステムがない	②メリットが明らかでない	③導入コストが高い	④活用部門がない	⑤活用人材が不足	⑥相談先が分からない	⑦情報漏えい等のリスク	⑧挑戦する余裕がない
全体	403	68	108	77	24	68	21	25	12
製造	135	20	44	24	3	26	9	7	2
卸・小売	118	21	33	20	8	20	8	4	4
建設	49	9	9	9	4	10	2	3	3
医療・福祉	52	9	12	14	2	6	1	7	1

### 問5 どのような事業を活用したいか

「導入事例の紹介」「セミナーの開催」が多かったことから、現場レベルのノウハウを把握したいというニーズが多くあることが分かった。

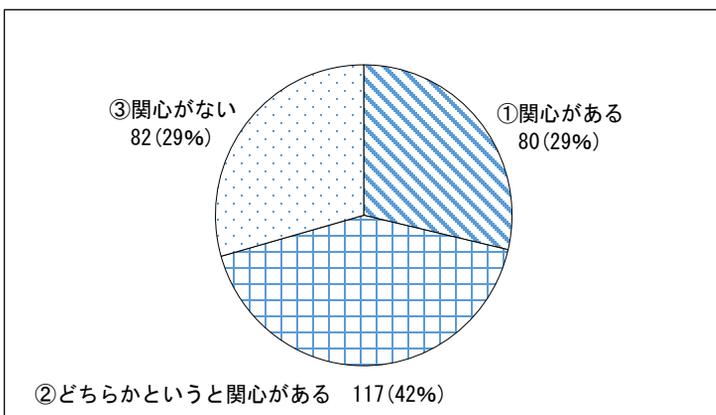


分類	計(複数回答可)	①セミナーの開催	②導入事例の紹介	③専門家によるアドバイス	④相談窓口の設置	⑤補助金制度	⑥低利融資制度
全体	396	96	128	47	27	92	6
製造	137	33	44	17	6	33	4
卸・小売	119	27	31	18	14	28	1
建設	54	17	19	4	2	11	1
医療・福祉	44	10	18	2	3	11	0

## (2) アンケート結果 (AIについて)

### 問1 AIについての関心度について

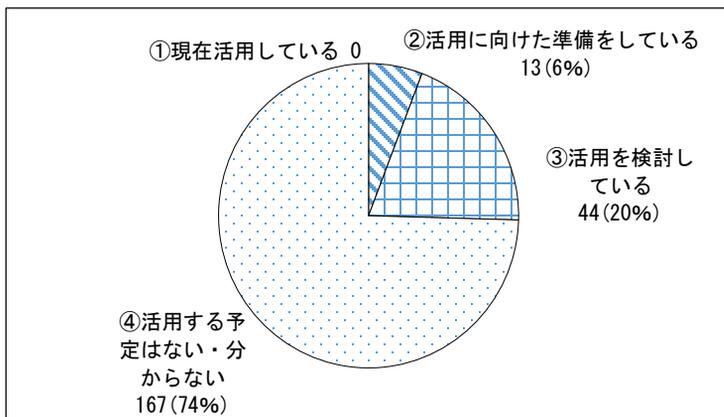
「関心がある」「どちらかというに関心がある」と回答した企業71%と高い数字になった。業種別では、「製造」「卸・小売」「医療・福祉」で特に関心が高いことが分かる。



分類	計	①関心がある	②どちらかというに関心がある	③関心がない
全体	279	80	117	82
製造	87	25	35	27
卸・小売	82	21	40	21
建設	42	9	19	14
医療・福祉	34	15	11	8

### 問2 AIの活用状況について

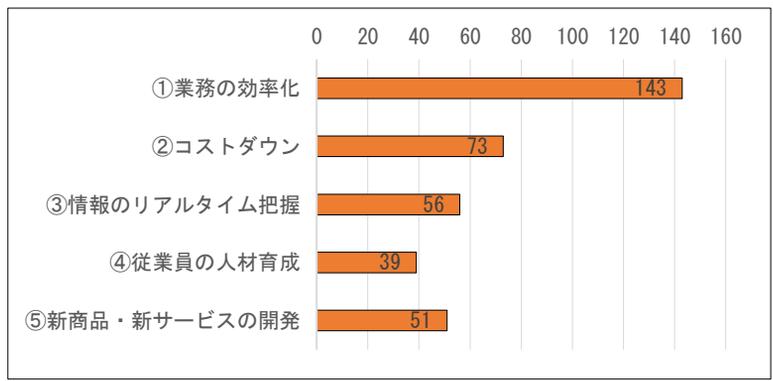
「活用している」と答えた企業は1社もいなかった。また、活用の準備・検討している企業も少なく、AIについて認知されていない。業種毎では、「製造」「卸・小売」で活用に向けた準備・検討をしている企業が複数あることが分かる。



分類	計	①現在活用している	②活用に向けた準備をしている	③活用を検討している	④活用する予定はない・分からない
全体	224	0	13	44	167
製造	71	0	4	17	50
卸・小売	69	2	5	10	52
建設	30	0	0	5	25
医療・福祉	29	1	0	7	21

### 問3 AIに期待すること

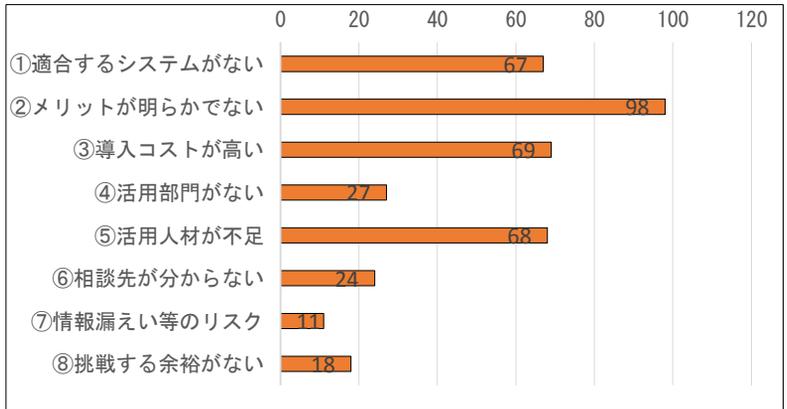
「業務効率化」「コストダウン」「情報のリアルタイム把握」など、業務改善への期待が高いことが分かる。また、一方で、「新商品・新サービスの開発」に期待する声もあった。



分類	計(複数回答可)	①業務の効率化	②コストダウン	③情報のリアルタイム把握	④従業員の人材育成	⑤新商品・新サービスの開発
全体	362	143	73	56	39	51
製造	111	44	23	16	10	18
卸・小売	114	42	17	27	8	20
建設	51	18	14	5	10	4
医療・福祉	45	21	10	4	7	3

### 問4 活用する上で課題と思われること

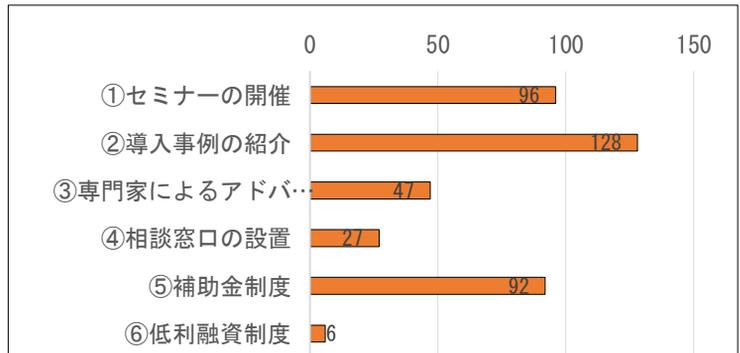
メリットの分かりにくさや導入コストの高さなど、そもそもAIの活用の仕方が分からないという声が多く寄せられた。



分類	計(複数回答可)	①適合するシステムがない	②メリットが明らかでない	③導入コストが高い	④活用部門がない	⑤活用人材が不足	⑥相談先が分からない	⑦情報漏えい等のリスク	⑧挑戦する余裕がない
全体	382	67	98	69	27	68	24	11	18
製造	115	15	32	19	4	25	8	4	8
卸・小売	120	21	32	18	9	21	11	3	5
建設	52	12	9	8	7	10	3	1	2
医療・福祉	50	10	15	13	3	5	1	1	2

### 問5 どのような事業を活用したいか

「導入事例の紹介」が最も多かったことから、現場レベルのノウハウを把握したいというニーズが多くあることが分かった。



分類	計(複数回答可)	①セミナーの開催	②導入事例の紹介	③専門家によるアドバイス	④相談窓口の設置	⑤補助金制度	⑥低利融資制度
全体	370	98	111	46	28	81	6
製造	117	34	33	14	8	25	3
卸・小売	116	29	26	19	15	26	1
建設	54	14	20	8	1	9	2
医療・福祉	43	11	18	2	1	11	0

## 【検証結果】

- 回答企業の多くは「IOT・AIに関心」を示しており(IOT:77%、AI:71%)、中でも、「業務の効率化」や「コストダウン」など、導入による業務改善への期待が大きい。
- IOTを導入し活用している企業は複数あるが、AIを独自に導入している企業はなかった。準備をすすめている企業も少なく、AIについて認知されていないことが分かる。
- 課題としては、「メリットの分かりにくさ」「導入コスト」を挙げる企業が多く、IOTやAIそのものの普及啓発や具体的な活用事例の紹介が急がれる。

## 第2章 商業・サービス業でのIoT導入のポイント

アンケート結果から、県内企業のIoT導入についての高い関心度が分かりましたが、同時に「メリットが分からない」等の声もありました。ここでは、商業・サービス業におけるIoT導入についての手法など、基本的な考え方を示しています。

### 1 流通業におけるIoT

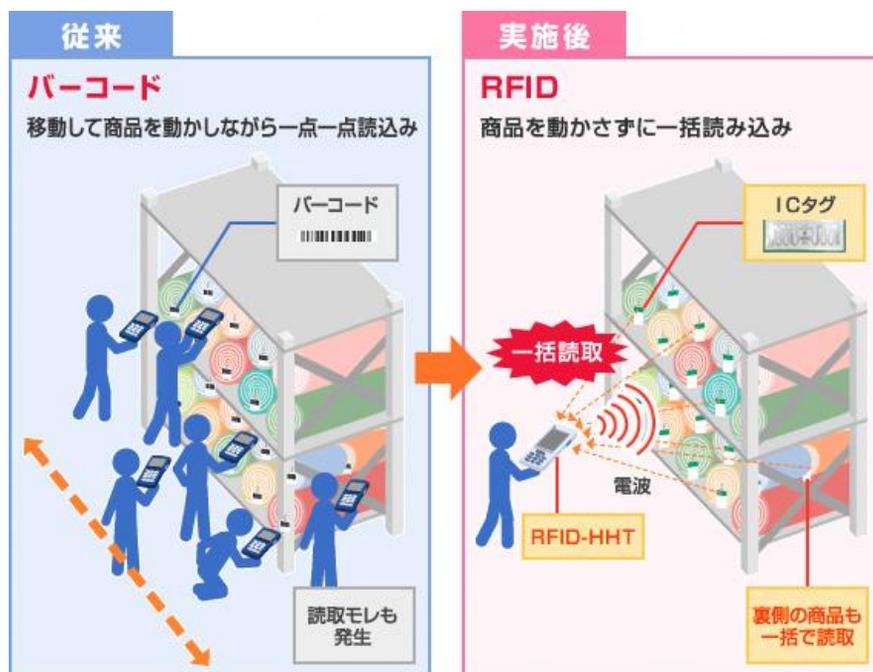
IoT (Internet of Things) は「モノのインターネット」と言われます。流通業における「モノ」と言えば、商品になります。この商品をネットワークにつなげることで、在庫管理や出荷管理、レジ作業など様々な業務で効率化が図れます。

ネットワークにつなげる具体的な方法として、RFIDタグ (ICタグとも言います) を利用します。RFIDの特徴は、主に以下の3点です。

- ・非接触でデータの読み出し (Read)、書き換え (Write) が可能
- ・電波・電磁界で交信するため、タグの表面が見えなくても読み書きが可能
- ・複数タグの一括読み取りが可能

そのため、従来のバーコードに比べ、1つ1つのコードをバーコードスキャナで読み取る必要がなくなり、作業効率が高まります。

図・RFIDによる棚卸の効率化



(出典) <https://ec-orange.jp/ec-media/?p=10839>

## 2 小売業における I o T

IoTをさらに拡大した概念にIoE（Internet of Everything）があります。「モノ」だけでなく、人や施設、情報、データなどあらゆるものをつなげることで新たなサービスを提供しようというものです。

ビーコンを利用すると位置情報を取得できますので、動線を調べることができます。例えば、ショッピングカートにビーコンをつけることで、買物客一人一人の店内での行動を知ることが可能になります。そして、POSレジでの購買品データと店内での行動を分析することで、興味を示したが購入しなかった商品が何かなどを知ることができます。

また、店内にいる顧客数がわかりますので、顧客数に応じて適正なレジ数を計算し、レジ待ちすることなく精算ができるように人員を配置することも可能になります。

図・カート分析のイメージ図



(出典) <https://news.mynavi.jp/article/20161207-a122/>

### 3 飲食業・サービス業におけるIoT

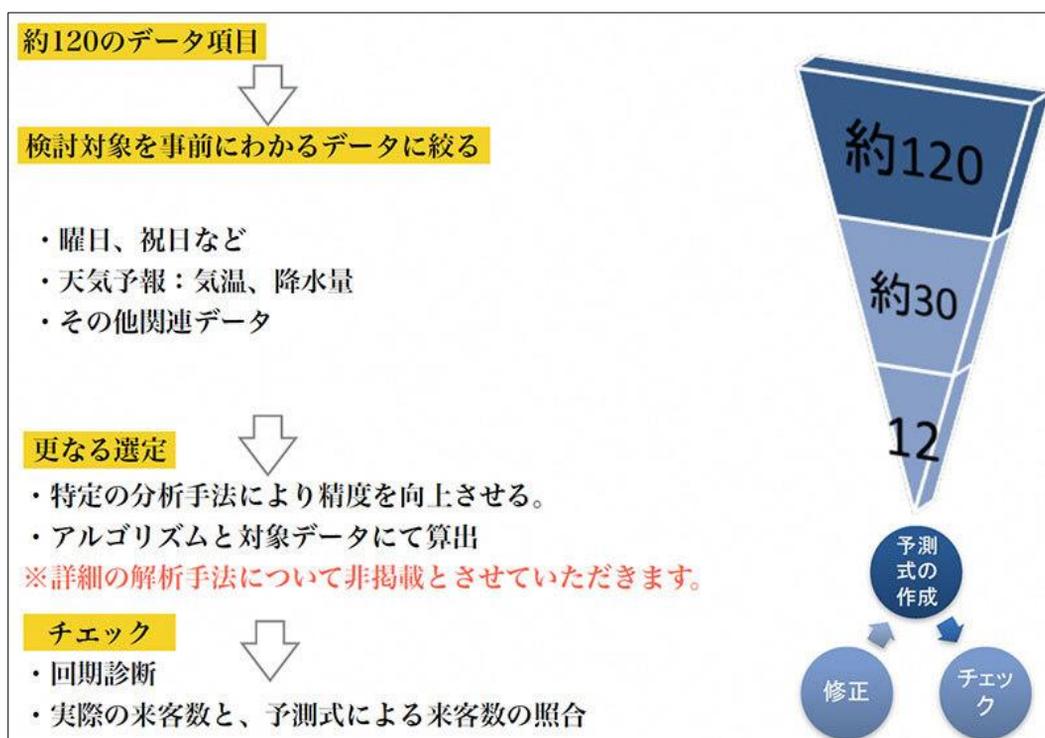
IoTと合わせてAI（人工知能）の活用が広がっています。IoTによって集めた膨大なデータをAIで分析するというものです。

飲食業やサービス業における悩みは、お客様がいつ来店するかわからない＝需要予測が難しい、というものです。需要が分からないため、食材に無駄が発生したり、店員の配置に無駄が生じたり、と生産性が向上しない原因になっています。

顧客が来店する要因となる様々なデータを集め、AIを使って分析することで需要予測を行うことが可能になります。三重県伊勢市にある「爰びや」は、伊勢の観光客をターゲットに、地元の特産品やオリジナル商品を扱う商店と伊勢の新鮮な食を供する和食レストランなどを営む創業100年の老舗です。画像解析のデータを含めて1日約125項目のデータを集め、AIを使って時間単位で来店顧客数や購買数を予測しています。

こうしたデータ活用・IT活用が、結果として生産性の向上につながり、5年前から当社の従業員数に変化はありませんが、売上を4倍、利益率を10倍にしています。平均給与も5年前から20%以上アップさせています。

図・AIによる需要予測



(出典) [https://japan.cnet.com/extra/ms\\_ebiya\\_201710/35108734/3/](https://japan.cnet.com/extra/ms_ebiya_201710/35108734/3/)

#### 4 IoTにより業種の壁がなくなる

IoTの普及により期待されていることに、「マス・カスタマイゼーション」の実現があります。「マス・カスタマイゼーション」とは大量生産と受注生産という2つの概念を両立させるものです。前者は量を追うことで生産コストを下げられます。一方、後者は個々の顧客の要望に対応するためコストはかかりますが満足度の高い商品を提供でき、付加価値を引き上げやすくなります。

例えば、衣料品のネット通販大手のZOZOTOWNはZOZOSUITという身体の寸法を測定するボディースーツを開発しました。これを着て自分の身体の寸法をZOZOTOWNに送ることで、自分の身体にピッタリの洋服が届きます。

一方、製造業がサービス業化しています。タイヤメーカーのミシュランは、走行距離に応じて課金するサービスを始めています。タイヤを販売するのではなく、タイヤを貸し出して使った量（走行距離）に応じて使用料を徴収するビジネスです。

お客様が不満に感じていたことをIoTで解決すれば、新しい需要を生み出すビジネスが作られます。裏を返せば既存のビジネスは衰退することになります。新しい時代の流れに乗り遅れないようにしなければなりません。

図・ZOZOSUIT



(出典) <http://zozo.jp/zozosuit/>

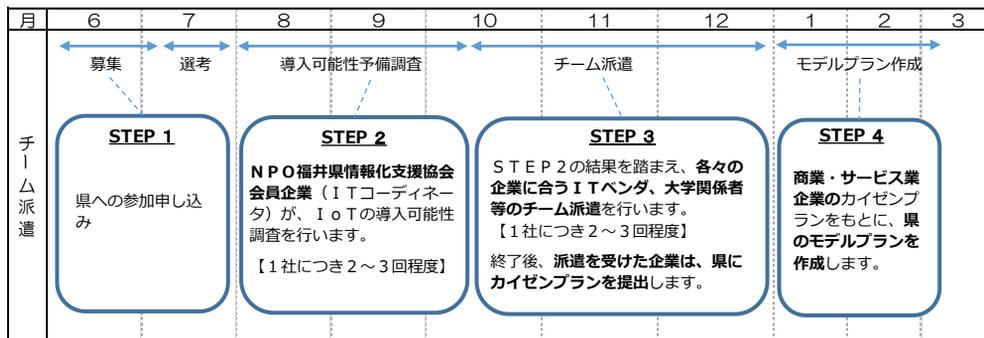
(監修：福井県情報化支援協会 理事長 柘川 昌文 氏)

### 第3章 IoT導入の具体的事例

IoT導入を検討している商業・サービス業企業を公募して、県内外IT企業を中心としたプロジェクトチームを派遣し、導入の可能性調査を実施しました。

#### 1 プロジェクトチームの派遣による課題の抽出

プロジェクトチームを派遣した県内企業の抱える課題からIoT導入の具体的方法を紹介します。



図・チーム派遣の流れ

#### (1) 協同組合ゴールドショッピングセンター

- 企業名：協同組合ゴールドショッピングセンター
- 住所：福井市花堂南2丁目（ショッピングシティ・ベル）
- 概要：組合員の店舗設置の共同化および維持管理など

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・顧客カードを利用したPOSシステムを導入しており、購買データを収集する仕組みが出来ているが、収集したデータを売上向上に活用できていない。</li> <li>・販促企画策定のため、買い物動向分析を行いたい。</li> </ul>
チームによるアドバイス	<ol style="list-style-type: none"> <li>①POSシステムに購買データを分析できる機能（デシル分析、RFM分析、クラスター分析）を追加してみてもどうか。</li> <li>②SNSを利用した販促活動やその検証を行い、新しい顧客モデルを構築してはどうか。</li> <li>③顧客カードのICカード化、携帯電話のNFC（ICチップ）の利用やショッピングカートにRFIDを搭載して、消費者の動線調査を行ってはどうか。</li> </ol>
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まずは取り組みやすいICTの面（①②）から実施</li> </ul>

## (2) 株式会社タマヤ

- 企業名：株式会社タマヤ
- 住 所：越前市高瀬1丁目
- 概 要：パソコンなどICT機器のレンタル事業

課 題	<ul style="list-style-type: none"><li>・レンタル機器の状態の「見える化」が完全でないため、出荷可否が即座に確認できない。</li><li>・機種ごとの作業手順が異なるため、機種が増えると手順も増え、パート社員への指導、マニュアル作成が増えている。</li><li>・機器の保管場所、作業場所の適切なスペースの確保管理ができていない。</li></ul>
チームによる アドバイス	<p><u>ICTの面において</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>①在庫管理システムにより、型番ごと性能ごとの在庫把握や設定指示前、設定済などの状態管理ができるように改善し、さらに未来の在庫状態も予測できるようになる。</li><li>②セッティング作業指示をシステム化することで、効率化とミスの低減、工程進捗の見える化を行い、作業の遅れや納期の確認が行える。また、工程の標準時間を実績と比較することでコストや作業の予測が可能になる。</li><li>③作業の工程や実績をタブレットPCに表示することで視覚的な説明でミスの低減や各工程の進捗をリアルタイムに把握でき、日報作成工数低減、コスト分析が可能になる。</li></ul> <p><u>IoTの面において</u></p> <ul style="list-style-type: none"><li>④レンタル機器の個体識別にRFIDを添付することで、貸し出し、返却作業が迅速になる。</li></ul>
今後の方針	<ul style="list-style-type: none"><li>・まずは取り組みやすいICTの面（①②③）から実施</li><li>・IoTの面（④）においては、費用対効果を見極めながら導入を検討</li></ul>

## 2 プロジェクトチーム派遣から得られる知見

今回のプロジェクトチーム派遣より、商業・サービス業企業のIoT導入に必要な事項として、下記の知見が得られました。

### ①小さくはじめる

→データ収集の優先順位をつくり、できるだけ作業者の負担の少ない方法でデータを収集することが重要です。作業者にとって負担のかかる方法では、データ収集は定着しません。

### ②必ずテストをする

→導入する前に、必ずテストをやってみることが重要です。テストをすることで、投資対効果を把握することができます。投資効果を見極めながら、徐々に拡大していくことがIoT定着の鍵となります。

### ③パートナーと一緒にやる

→IoT導入は決して1社では出来ません。IoT導入後も、その効果を分析して継続的にアドバイスをしてくれるパートナー企業が重要になってきます。県内にもIoT導入の実績のあるIT企業が多くありますので、パートナーとなる企業と一緒にIoT導入を目指すことをご検討ください。ただし、最終的には自社でプログラムを運用できることが望ましいので、ぜひ自社内でのIT人材の育成強化も同時にすすめてください。

【参考】プロジェクトチーム派遣事業に参画した機関、県内IT企業（50音順）

- ・ 福井県情報化支援協会

<https://www.itcfukui.jp/>

理事長 枦川 昌文 氏  
理 事 横屋 俊一 氏  
理 事 佐藤 宏隆 氏  
清水 昭彦 氏  
増永 治和 氏

- ・ 株式会社アートテクノロジー

<http://www.art-tec.co.jp/>

- ・ 株式会社永和システムマネジメント

<https://www.esm.co.jp/>

- ・ 株式会社江守情報

<https://www.i-emori.co.jp/>

- ・ 株式会社シー・シー・ユー

<http://www.ccu.co.jp/>

- ・ 株式会社システムエルフ

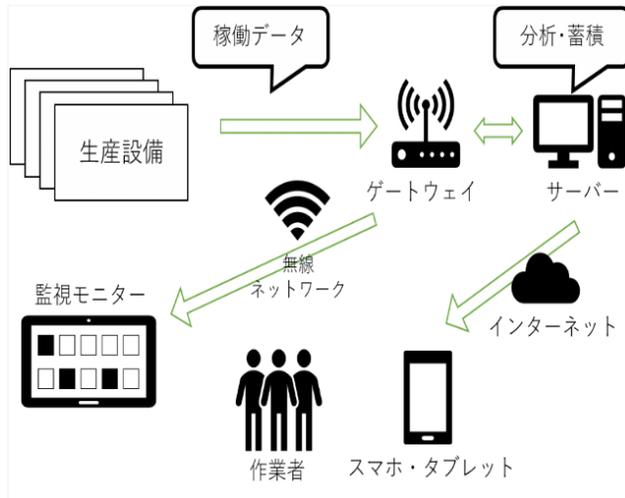
<http://www.system-elf.co.jp/>

### 3 実際にIoTを導入した県内企業の事例

福井県では、平成29年度9月補正事業より、IoT・AI等導入促進事業補助金制度を創設し、県内企業の具体的な取組みを支援しています。以下に、代表的な4つの事例をご紹介します。

#### ①小杉織物株式会社（「身の丈IoT」チャレンジ枠）

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浴衣帯の製織機（約70台）の消耗部品の劣化により故障停止回数が増加</li> <li>・ 設備の稼働状況が分からず、停止のまま長時間放置される事も多い</li> </ul>
取組内容	製織機すべてにセンサーを設置して、稼働状況データを収集し、スマホ・タブレットや監視モニターでリアルタイムに監視



#### おおまかな費用

- ・ 表示システム 約90万円
- ・ センサー、発信機(70台分) 約140万円

#### ②株式会社ワカヤマ（「身の丈IoT」チャレンジ枠）

課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ めっき、塗装は職人の手作業によるところが大きく、人によって作業時間もまばらだが、どこに無駄が生じているか把握できていない。</li> </ul>
取組内容	RFIDカードを工程毎に決められたカードリーダーに置くだけで作業時間が計測できるシステムを導入し、職人の作業時間を計測

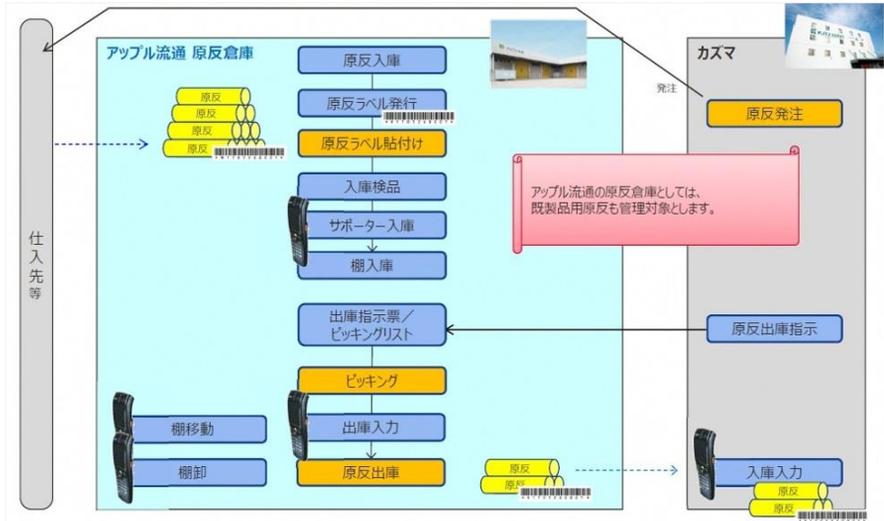
The screenshot shows a software interface for tracking work time. It lists various processes like '切削加工工程', '曲げ加工工程', etc., and provides details for specific workers such as '片平さん' and '伊藤さん', including their start/end times and work hours. Below the screenshot is a photo of a hand holding an RFID card over a reader device. A text box in the photo reads: '休憩や食事で作業を中断する場合や、他の工程へ応援に行くような場合は、作業カードを持っていきます。' (When work is interrupted by a break or meal, or when you go to support another process, please bring your work card.)

#### おおまかな費用

- ・ 機器一式 (ICカード、リーダー等) 約90万円
- ・ ソフトウェア導入経費 約180万円

③株式会社カズマ 連携企業:アップル流通株式会社 (「つながる工場・店舗」IoT活用実証枠)

<b>課 題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>カーテンの原反を製造・卸業者各々で管理しており、出庫指示書や入庫予定表のExcel作成、目視での確認等、日々膨大な時間を要している。</li> </ul>
<b>取組内容</b>	原反にバーコードを貼付して、製造・卸業者の各々に共通のシステムを導入することにより、出庫・入庫作業に要する時間を短縮

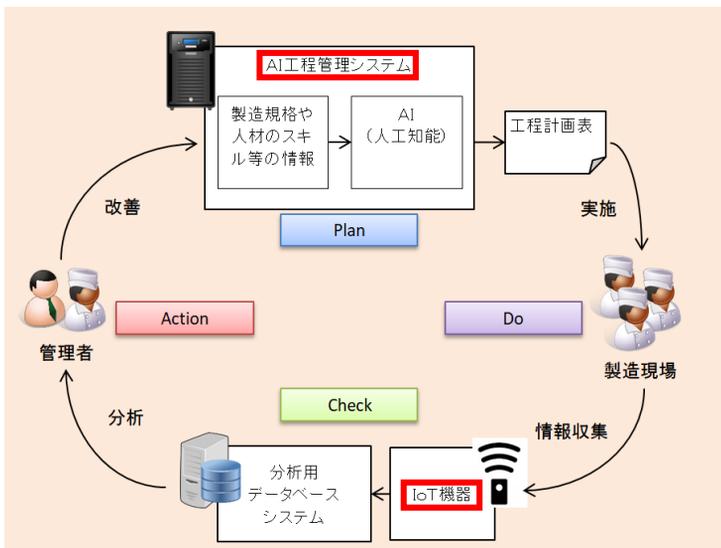


おおまかな費用

- 機器一式 (バーコード読取機等) 約190万円
- システム開発委託 約890万円
- LAN工事 約60万円

④株式会社オーカワパン (AI等活用先進型モデル枠)

<b>課 題</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々工程計画の作成を手書きで長時間かけて行っており、作成者に負担</li> <li>工程毎の作業時間や品質に関するデータが取れていない。</li> </ul>
<b>取組内容</b>	製造規格による工程と人材のスキル等を結び付けた最適な工程計画をAI工程管理システムが自動作成し、生産性向上を達成



おおまかな費用

- 機器一式 (IoT測定デバイス) 約200万円
- ソフトウェア導入経費 約1,530万円

県では、それぞれの取組みの進捗を確認し、成果を挙げた事例については、横展開できるよう周知していく予定です。

## 第4章 IoT導入の支援策

では、実際にどのようにIoT導入を始めれば良いのでしょうか。現在、国や県で下記のような支援策がありますので、ぜひご活用ください。

### 1 国の支援策

経済産業省製造産業局は、平成30年3月に「第四次産業革命に挑戦する中堅・中小企業への支援施策」を発表しています。（下記は、その一部を抜粋しています）

#### ○資金面での支援

- ・サービス等生産性向上IT導入支援事業

中小企業がIT・IoTツールを導入し、生産性向上を図る際の必要経費を補助(上限50万円、補助率1/2)

<https://www.it-hojo.jp/>

- ・コネクテッド・インダストリーズ税制

一定のサイバーセキュリティ対策が講じられたデータ連携・利活用により、生産性を向上させる取組について、必要なシステムやセンサー等の導入に対して、特別償却や税額控除を措置。平成30年7月頃開始予定

#### ○導入効果や方法についての周知

- ・先進事例集の紹介

国内企業による「IoTをうまく活用した例」をサイトで公開。現在212件を公開中

<http://usecase.jmfrri.jp/>

- ・第四次産業革命スキル習得講座認定制度

民間事業者が社会人向けに提供するIT・データ分野を中心とした専門性・実践性の高い教育訓練講座について、経済産業大臣が認定する「第四次産業革命スキル習得講座認定制度」を平成29年7月に創設。平成30年1月に23講座（16事業者）を認定し、平成30年4月から認定講座の受講を開始

- ・IoT自己診断/費用対効果算定ツール

「自社がどのくらいIoTを活用できているか」「IoTに投資するとどのくらい効果があるのか」を診断、算出できるツールを経済産業省が作成。HPからダウンロード可能

[http://www.meti.go.jp/report/whitepaper/mono/2016/iot\\_tool.html](http://www.meti.go.jp/report/whitepaper/mono/2016/iot_tool.html)

- ・スマートものづくり応援ツール

ロボット革命イニシアティブ協議会は、中小製造業がより簡単に、低コストで使える業務アプリケーションやセンサー等のツールについて、7つのユースケースをテーマに収集。応募のあった230件を公開

<http://www.jmfrri.gr.jp/info/314/>（第1回：106件）

<http://www.jmfrri.gr.jp/event/seminar/618/>（第2回：124件）

その他にも、下記の支援策を活用することが出来ます。

- 革新的ものづくり・商業・サービス開発支援補助金（ものづくり補助金）  
経営力向上に資する革新的サービス開発・試作品開発・生産プロセスの改善を行うための中小企業・小規模事業者の設備投資等の一部を支援  
<http://www.chuokai-fukui.or.jp/>（福井県中小企業団体中央会HP）
- ミラサポの専門家派遣事業  
中小企業・小規模事業者の未来をサポートする事業（ミラサポ）として、専門家派遣が可能  
<https://www.mirasapo.jp/>

## 2 県の支援策

本県においても、平成28年度9月補正事業より、IoTについてのセミナーやIoTプロジェクトチームの派遣を実施し、平成29年9月補正事業から、IoTやAIの導入経費の一部を支援する補助金制度を創設しています。平成30年度についてもこれらを継続していきます。

さらに、県内大学や企業と連携し、IoTやAIの導入についての相談窓口や機器・システムの活用体験ができるラボを設置しますので、ぜひご活用ください。

- セミナーの開催  
IoTの導入効果や導入方法、身近な成功事例などを分かりやすく紹介するセミナーを開催
- IoT導入プロジェクトチームの派遣  
IoTの導入を検討している企業に対し、プロジェクトチームを構成し、導入の可能性調査を実施
- IoT・AI等導入促進事業補助金  
IoT・AI等導入に要する経費の一部を助成し、企業の生産性を向上する取り組みを支援

### ①「身の丈IoT」チャレンジ枠

比較的安価に導入できるIoTを活用して、生産性向上を図るモデル的な取り組み  
（補助率1/2、補助上限額1,000千円）

### ②「つながる工場・店舗」IoT活用実証枠

複数の企業が連携してIoTを導入し、相互の生産性を上げるモデル的な取り組み  
（補助率2/3、補助上限額2,000～3,000千円）

### ③AI等活用先進型モデル枠

IoTにより収集したデータを用いて、AIやロボットにより新たな付加価値を生む先進的な取り組み  
（補助率1/2、補助上限額10,000千円）

- AIビジネスオープンラボ(仮称)の設置  
産学官が連携し、IoTやAIの導入についての相談窓口や機器・システムの活用体験ができるラボを県産業情報センター1階に設置（平成30年秋予定）

→支援策の紹介（福井県ホームページ）

<http://www.pref.fukui.jp/doc/sinsan/index.html>

### 3 福井県IoT推進ラボ

平成28年6月に、経済産業省が中心となり、地域におけるIoTプロジェクト創出のための取組みを選定する「地方版IoT推進ラボ」の募集があり、同年7月、福井県の提案した取組みが、「福井県IoT推進ラボ」として認定をされました（全国74地域）

この推進ラボでは、異業種間での情報交換やビジネスマッチングをすすめていきます。

- 公式Twitterページによる情報発信

福井県IoT推進ラボの公式Twitterを開設し、福井県の支援策や関連トピックなどを幅広く発信

[https://twitter.com/fukui\\_iotlab](https://twitter.com/fukui_iotlab)

- ビジネスマッチング会の開催

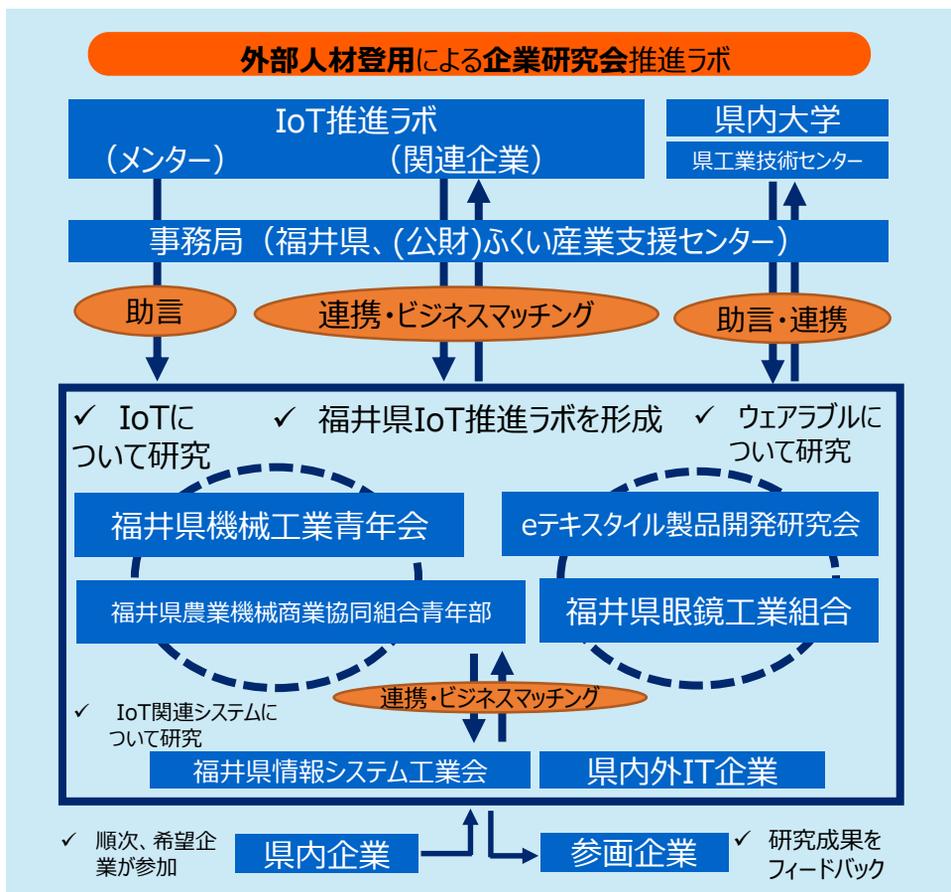
福井県IoT推進ラボ会員を中心に、異業種間のニーズ・シーズを提案するマッチング会を開催

- ラボ会員の随時募集

福井県ホームページにおいて、IoT推進ラボの会員を随時募集

<http://www.pref.fukui.jp/doc/sinsan/iot.html>

図・福井県IoT推進ラボ 実施体制





**福井県 産業労働部 新産業創出課  
創業・新産業支援グループ**

TEL 0776-20-0537 E-mai [sinsangyo@pref.fukui.lg.jp](mailto:sinsangyo@pref.fukui.lg.jp)